

# 平成28年度 政策づくり塾 第7回活動報告

第7回(11月22日)は、森本OBアドバイザーによるアイスブレイク「私のプチ自慢」で盛り上がった後、府の施策を事例として事業の「必要性」や「合理性」について考察する塾長の講義を受けました。その後、グループワークを行いました。

## 塾長の講義

～必要性や合理性を検討してより良いものに～

京都府の次世代下宿「京都ソリデール」事業を例にすると、必要性の面では、上位計画における基本目標とどうつながるのか、民間事業者ではできないのか等の疑問点があり、合理性の面では、マッチングができるのか、ニーズがあるのか、補助金制度が必要か等の疑問点が上げられる。アイデアから施策にする段階でいろいろな人の思いが混ざり変わってくることもあるが、必要性や合理性、無駄がないかを検討しなければならない。

政策づくり塾でもこのような観点で、現在の企画案をもう一度検証し、より良いものに仕上げしてほしい。



## グループワーク・発表

～実施に向けた企画案の練り直し～

### 「舞鶴版スマートウエルネスシティプロジェクト」グループ

- 20代～40代の男性をターゲットにした「歩き方教室」の開催に向け協議を進めている。
- 会場の選定、集まりにくいターゲット層の募集方法、講座の内容など、当初の企画から変えなければならないと感じている。
- スマートウエルネスシティの実現に向けて、舞鶴市としてどういう方向性が考えられるかを提案したいと考えており、その中の一部として「歩き方教室」を実施したい。



### 「舞鶴版キッズニア」グループ

- イベントの規模が大きすぎるので、自分たちでできる範囲の会場や企業数、参加想定人数などの規模の縮小を検討している。
- 当初は中学生の職業体験や仕事を知る機会を増やしたいとの思いで企画したが、集客の面から小学生も対象としたところ、ターゲットや目的がぼやけてしまった。再検討が必要。
- 再度、目的・実施内容などを早急に協議する。



## <塾長講評・アドバイス>

両グループとも、方向性は、市政とも合致している取り組みなので、「誰のために何をするのか」をはっきりさせて、詳細を詰めていってほしい。

グループのメンバーを中心に実施することに無理はないか、イベントに来てもらわないと成立しないものなので、そこをどうクリアするかなど、まだまだ検討の余地はある。グループで協議を重ねて、自分たちが楽しむことも要素として加えれば、よりよい活動になると考える。